

総合的な学習の時間 第4学年 学習指導案（全10時間）

1. 単元名 「みんなの幸せプロジェクト」

2. 単元目標

「みんなが幸せな地域にしたい」という思いの実現に向けて、地域の人に自分たちの取り組みを発表する活動を通して、地域には障害当事者やそれを支える様々な方が存在していることを知り、地域の一員として、地域の人々がつながり、顔見知りになるために自分にできることを考え、行動しようとする。

3. 単元について

本単元では、地域への思いを大切にする児童の育成を目指し、福祉(みんなの幸せ)をテーマに学習していく。

地域への思いを大切にする教材として福祉を選んだのには、3つ理由がある。

1つ目は、4年生の子供たちは、「地域の人と触れ合いたい」「地域のためになることをしたい」という思いをもつことができる年齢である。人と触れ合い、人と関わるのが好きな年齢であるので、まずは、障害当事者をはじめとする様々な方と関わり、障害について知る体験学習を通して、様々な方と仲良くなる活動を設定したい。

2つ目は、子供たちにとって、障害当事者をはじめとする様々な方の存在は、普段の生活ではどのように接してよいのかよく分からず、関わり方に不安が大きいからである。「お年寄りに席を譲ったことがある」「体が不自由な方が歩くお手伝いをしたことがある」という子も一部いるだろうが、ほとんどの子が「声をかけようと思ったけどできなかった」「どのようにお手伝いしていいかわからない」「急に声をかけると不審者と思われるかもしれない」など、かかわりが十分ではないと思われる。1年を通じて様々な方と触れ合いながら、どう関わってよいか不安という気持ちをもつ存在から、仲良しの友達、自分のにとって大切な人になっていくようにしたい。自分にとって大切な存在になることで、その人のために何かしたいという思いや必要感をもてるようにし、学習が自分事になるようにしていきたい。

3つ目は、地域には、障害当事者をはじめとする様々な人を支える方々がいるからである。社会福祉協議会の職員の方をはじめ、障害者施設やボランティア団体の皆さん、役所の方々など、福祉にかかわる様々な人たちの思いを学んでほしい。地域の方と繰り返し関わることで、障害当事者の方と関わる楽しさだけでなく、サポートしてくださる地域の方への憧れや感謝の思いをもてるようにしたい。さらには、地域みんなの幸せのために自分たちにできることをしていきたいという、貢献の思いをもてるようにしていく。

4. 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<p>① 地域には、障害当事者をはじめとする様々な方が暮らしていること、一人一人の存在が守られていることを理解している。</p> <p>② 地域には、社会福祉協議会やボランティア団体、障害者施設などがあり、人々が互いに助け合ってよりよく暮らすための取り組みや場所があることを理解している。</p> <p>③ 地域では、障害当事者をはじめとする様々な方を支えている方々がいること、またその考え方や思いを理解している。</p>	<p>① 障害当事者をはじめとする様々な方と関わる活動において、自分たちの生活と比較したり、あらゆる立場から多面的に見たりしながら、感想や自分たちにできそうなことをワークシートに書いている。</p> <p>② インタビューや交流会において質問する内容について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。</p> <p>③ みんなが幸せな地域づくりを実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見出している。</p> <p>④ 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして、具体的に行動に移している。</p>	<p>① 障害当事者をはじめとする様々な方との交流において、相手の立場を尊重しながら思いを受け入れ、積極的に関わろうとしている。</p> <p>② みんなが幸せに暮らせる地域を実現するためのイベントの開催に当たって、目的意識を明確にして自ら働きかけようとしている。</p> <p>③ みんなの幸せを目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。</p>

5. 指導と評価の計画

時間	学習活動	注意事項
1・2 時間目	「みんなの幸せ」について話し合い、今後の学習への見通しもつ。	「福祉」についてイメージができるように、社会福祉協議会の方に話していただく。
3時間目	車いす生活者の方のお話を聞く。 ・好きなことや幸せを感じることに ・車いす生活で大変なことや困っていること	車いす生活者の方の人柄が分かるように、車いす生活の大変さだけでなく、好きなことや幸せを感じることもなども話していただく。
4時間目	車いす体験をする。 車いすで坂道や段差などを通ったり、車いすを押してサポートしたりする。 ※学年を2つのグループに分け、3時間目と4時間目を交代で行うとよい。	安全面に注意して体験学習を行う。
5時間目	活動の振り返りを行う。 どのような活動を行ったのかを振り返り、学びをまとめる。	体験学習の写真や動画などを用いて振り返りを行う。
6・7時間目	地域にあるバリアフリーやユニバーサルデザイン、車いす生活者の方が困りそうな場所などを見つける。	学校内や地域の施設など確かめる。授業時間内が難しいければ、登下校中や下校後などに観察する。
8～10 時間目	自分たちにできそうなことを話し合い、実行する。	考えるだけでなく、実際に行動に移せるようにする。